

松井紫朗「Far Too Close」 Shiro Matsui: *Far Too Close*



《Lag Behind/Lag Forward》2019 | 木(着色) | Photo: Kazuo Fukunaga



アートコートギャラリーでは、彫刻家・松井紫朗の新作展「Far Too Close」を開催します。

人と人、人と地球との位置関係をユーモラスに表現するインタラクティブ作品《Lag Behind/Lag Forward》や、展示室から中庭へと伸ばした導管で空間の内と外を繋ぐインスタレーション《Capital T》など、本展では新作を中心に紹介します。「内／外」「こちら／むこう」「見る／見られる」といったさまざまな領域や関係を鑑賞者が往来し体験しながら、作品を通して地球規模の時間や距離を知覚してゆく、「近くて遠い(Far Too Close)」遊び心に溢れた空間が出現します。

《Lag Behind/Lag Forward》は、天井から吊り下げられたブルーのアーチに頭を入れ、二人の観客が互いに背を向けて鑑賞する作品です。視線を真っすぐにして立ってみますと、たった1m近くにいるはずの背後のもう一人が、実は地球一周分ほど向こう側に立っていることにも気づきます。非ユークリッド幾何学や球面幾何学を基盤に、二人の距離を測る不思議なアーチがギャラリー空間に浮遊します。「向き合う二人」を結ぶ、最短距離であるはずの直線について、観客は豊かに想像を膨らませるでしょう。

また松井は、先端をラップ型に開いた導管を方々へ伸ばし、壁や距離によって隔てられた空間に声を通わせるインスタレーションを、ドイツをはじめ内外で継続的に発表してきましたが、本展では、8mの導管を展示室からガラス壁を通してパイプラインのように中庭へと伸ばし、対照的な空間をつなぐ《Capital T》を展示します。

1983年の初個展以来、松井は多様な素材(木、金属、土、石)を用い、生物を思わせる造形で「ART NOW '85」に選出されるなど、“関西ニューウェーブ”を担う若手美術家の一人として注目を集めました。人の知覚や空間概念に働きかける作品を展開し、90年代前半より建築物と一体となったインタラクティブ作品や、巨大バルーンの作品も手掛けるようになります。身近な出来事から天体の動きまで、私たちは周囲の事象と相対的に自己を位置づけ、身体を通じた対話を図りながら空間を認識しています。松井は、そのような身体経験によって知性の働きを誘発する作品を、多様な素材、形体、色彩、スケールで手掛け、新鮮な空間概念を提示し続けています。

【展覧会概要】

展覧会タイトル：松井紫朗「Far Too Close」 Shiro Matsui: *Far Too Close*

会期：2019年10月12日[土] - 12月21日[土] *休廊：日・月・祝

会場：アートコートギャラリー 〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F

開廊時間：11:00-19:00 [土曜日-17:00]

◆ 関連イベント 2019年10月12日[土]

17:00-18:30 対談 [十一元三 (といちもとみ; 京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系 教授) × 松井紫朗]

18:30-19:30 レセプション

*対談は要予約 (Email: info@artcourtgallery.com または TEL: 06-6354-5444) *参加費無料

主催：アートコートギャラリー(株式会社八木アートマネジメント) | 協賛：三菱地所株式会社、三菱マテリアル株式会社、三菱地所プロパティマネジメント株式会社

【お問い合わせ】アートコートギャラリー [担当: 浜田・大場] ※ビジュアル資料ご希望の方はお問合せ下さい。

〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F TEL:06-6354-5444 FAX:06-6354-5449 E-mail:info@artcourtgallery.com www.artcourtgallery.com

松井紫朗「Far Too Close」 Shiro Matsui: *Far Too Close*

【参考作品】



《Voice Scope》1994 | 銅 | 500 x 3000 x 180 cm | 個展、ザールブリュッケン市立美術館、ドイツ

松井紫朗 Shiro Matsui

1960 奈良県生まれ
1984 京都市立芸術大学美術学部美術科彫刻専攻卒業
1986 京都市立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了
現在 京都市立芸術大学美術学部 教授

【主な個展】

2019 「手に取る宇宙 - Message in a Bottle DRAWING EXHIBITION 2019」ILA Gallery、札幌
2018 「美術館庭園アートプロジェクト 松井紫朗のセンス・オブ・ワンダー」姫路市立美術館 庭園
2016 「手に取る宇宙ー松井紫朗との関係」札幌宮の森美術館
2013 「ココトソコノアイダ」札幌宮の森美術館
「Forwards Backwards」アートコートギャラリー、大阪
2011 「亀がアキレスに言ったことー新しい世界の測定法」豊田市美術館
2010 「Hundreds of Gardens」アートコートギャラリー、大阪
「松井紫朗 Aqua- Lung Channel」白土舎、名古屋
2008 「松井紫朗のポアンカレ予想」白土舎、名古屋
2007 「what goes in comes out」白土舎、名古屋
2006 「Shiro Matsui Jonah's Green」ハウス・エスターズ、クレフェルド美術館、クレフェルド、ドイツ
2005 「...schnarchen?」アートテーク、ケルン、ドイツ
2004 「The Inside's Outside」白土舎、名古屋
「The Outside's Inside」ハイデルベルガー・クンストフェライン、ハイデルベルク、ドイツ



松井紫朗「Far Too Close」 Shiro Matsui: *Far Too Close*

- 2003 「Glossy Dark」 信濃橋画廊、大阪
- 2002 「Days Daze」 CASO、大阪
「Days Daze Yokohama」 ヨコハマポートサイドギャラリー、横浜
- 2001 「Vessels in Vessel」 白土舎、名古屋
- 2000 「dance, drink...」 インターヴェール、ヴィッテン、ドイツ
- 1997 「エステディオ」 ガレリア・ヘルガ・デ・アルヴィア、マドリッド、スペイン
- 1995 ヴェヴェルカ・パピリオン、ミュンスター、ドイツ
- 1994 ザールブリュッケン市立美術館、ドイツ
- 1993 ギャラリー・カーラ・シュトゥッツァー、ケルン、ドイツ
- 1990 「今日の作家シリーズ 松井紫朗彫刻展」大阪府立現代美術センター

【主なグループ展】(2000年以降)

- 2019 「集めた!日本の前衛—山村徳太郎の眼 山村コレクション展」 兵庫県立美術館、神戸
「2018年度 京都市立芸術大学美術学部同窓会展」 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、京都
- 2018 「ニュー・ウェイブ 現代美術の80年代」 国立国際美術館、大阪
「水と土の芸術祭 2018」 万代島多目的広場、新潟
- 2017 「自然と交歓する芸術祭 松戸アートピクニック」 21世紀の森と広場、松戸
「札幌国際芸術祭 2017」 モエレ沼公園、札幌
- 2016 「千崎千恵夫、松井紫朗 二人展」 東京画廊+BTAP、東京
- 2015 「現代京都藝苑 2015」 虚白院、京都
- 2014 「静物／彫刻 オブジェと置物の間に」 GALERIE SOL、東京
- 2013 「たんけん、ぼうけん、びじゅつかん!」 横須賀美術館
- 2011 「神戸ビエンナーレ2011招待作家展: REFLEXIONEN ひかり いろ かたち」 兵庫県立美術館、神戸
- 2010 「OAP彫刻の小径2010<UN-SYNTAX>」 OAP公開緑地内、大阪
「Trouble in Paradise / 生存のエシックス」 京都国立近代美術館
「あいちトリエンナーレ2010」 愛知芸術文化センター 他
- 2009 「FESTIVAL @RT OUTSIDERS」 ヨーロッパ写真美術館、パリ
- 2008 「大阪・アート・カレイドスコープ2008」 大阪証券取引ビル 他
- 2007 「第22回現代日本彫刻展」 宇部市野外彫刻美術館
- 2006 「TOUCH ART」 川越市立美術館
「居心地のよい場所」 春日井市文芸館
「未来の記譜法」 京都芸術センター
「画家の立体と彫刻家の平面」 白土舎、名古屋
- 2005 「αmプロジェクト Vol.9 松井紫朗+藤城凡子」 ASK?、東京
- 2004 「楽しむ空間・一歩前へ!」 宮城県美術館
- 2003 「表象都市 metamorphosis 広島」 旧日本銀行広島支店
- 2002 「SYDNEY FESTIVAL 2002」 ザ・ストランド / ザ・キュー・ヴィー・ビー、シドニー
- 2001 「美術館を読み解く」 東京国立博物館表慶館
- 2000 「Trading Views」 ザールブリュッケン市立美術館、ドイツ / シュテーティッシュ・ギャラリー、エアランゲン 他
「プライム: 記憶された色と形」 東京オペラシティーアートギャラリー

【パブリックコレクション】

宇都宮美術館、京都市美術館、豊田市美術館、新潟県立近代美術館、兵庫県立美術館(山村コレクション)、山口県立美術館、京都市立芸術大学、文化庁、京都府、宇部市、米子市、ザールブリュッケン市、タイムラークライスラー